

平成31年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	08	104550	文化財保護活用事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興		
	施策	03	文化財の保護と活用				
目的	文化財の保護と活用						
対象	市民、指定文化財（将来的に文化財として指定する価値があるものを含む）						
意図	（市民）文化財愛護の気持が育まれ、指定文化財の保護意識が向上する。 （文化財）適正に保護される。						
事業概要	<p>文化財の保護 19,140 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の調査と指定 花輪堤ハナショウブ群落の保存管理 個人が所有する指定文化財の管理指導や修理費の補助 市所有文化財建造物「花巻城内伊藤家住宅」の修復 文化財保存活用地域計画の作成 <p>文化財の活用 1,483 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財説明板や案内板の新規設置及び修繕 文化財調査報告書・花巻市史資料編の作成 <p>・市が所有する文化財の適切な管理運営</p> <p>・国選択文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」調査</p> <p>・文化財セミナーや早池峰自然観察会の実施</p> <p>・若手県文化財愛護協会負担金</p>						
市民参加の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02	
1	文化財調査の件数	件	計画	5.00	5.00		
			実績	5.00	2.00		
2	文化財セミナー、自然観察会の開催件数	件	計画	3.00	3.00		
			実績	3.00	3.00		
3	説明板や案内板等の改修、設置件数	件	計画	6.00	6.00		
			実績	5.00	6.00		
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02	
1	指定解除された文化財の件数	件	目標	0.00	0.00		
			実績	0.00	0.00		
2	市内の文化財等を6つ以上知っている市民の割合	%	目標	50.00	50.00		
			実績	34.60	32.40		
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>現在、市内には288件の指定文化財がある。文化財保護のため、市所有の指定文化財建造物及び指定天然記念物の維持管理を行うとともに、市指定の文化財所有者に対しては、修理に要する費用の一部を申請により補助（令和元年度は申請なし）しており、適切な管理と保護対策の実施により、文化財の指定解除は発生しなかった。</p> <p>市民の文化財保護に対する理解と認識を深めるため、文化財セミナー・早池峰自然観察会の開催や、文化財説明・案内板の設置等により、文化財の活用と普及を推進したが、市民の日常生活全般において文化財に触れる機会がすくないことなどから、市内の文化財等を6件以上知っている市民の割合は、目標を下回った。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	地域において過疎化や少子高齢化が進行し、加えて経済状況の悪化に伴い、市民共有の財産である文化財を保存、伝承する環境は厳しさを増している。文化財は人と人とを結び付け、地域の活性化や魅力あるまちづくりに貢献するものとして、行政がその絆を取り持つ役割を担っている。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	地域コミュニティ会議と連携を図りながら、文化財説明板の設置や修繕を継続的に行うことで文化財の現状を把握でき、適切な保存に結び付けることができる。また文化財ガイドブック等を効果的に活用することで、多くの市民の関心を引くことが期待される。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	文化財は地域のシンボルであり、市民教育や観光振興においても大きな価値を伴う。経費の削減により指定文化財の適切な維持管理ができなくなり、保存状態の悪化や、文化財そのものの散逸や滅失を招く。また地域コミュニティの沈滞を招き観光事業に大きな損失となる。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	適切な保護管理を行うことで、指定文化財が市民共有の財産としての価値を有する。所有者に対しては、管理や修繕に要する費用の一部を補助している。また所有者と連携を図りながら可能な限り公開・活用を図っている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	<p>国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」については、5か年の調査成果を報告書に取りまとめた。</p> <p>また、文化財保存活用地域計画の作成事業に新たに着手し、その基礎資料とするため、地域コミュニティ会議の協力を得ながら、地域の文化財の調査を実施した。</p> <p>さらに、花輪堤ハナショウブ群落の保存管理にかかる調査事業や、花巻城内伊藤家の修理にかかる設計業務の委託、各種セミナー等を行うなど、文化財の適切な保護と普及に努めた。</p>
	次年度に向けて	<p>「石鳩岡神楽・土沢神楽」調査報告書の刊行を踏まえ、次年度以降は映像記録の撮影を実施し、貴重な民俗文化財を後世に伝える。</p> <p>また、花巻城内伊藤家の修理事業を継続し、次年度は基礎・縁側の修復工事を実施する。</p> <p>今後、市内の各分野の文化財を調査のうえ、貴重なものについては指定を行うとともに、市民の文化財への関心と理解を深めるため、各種セミナー等の開催を通じて、文化財の保護と普及を継続して行っていくものとする。</p>

平成31年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	08	104570	埋蔵文化財保護活用事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	03	文化財の保護と活用			
目的	貴重な歴史財産である埋蔵文化財を適切に保護するため、遺跡の調査等を行うとともに、遺跡に対する市民の興味関心を高めるため、講演会の開催等埋蔵文化財の活用を図る。					
対象	遺跡					
意図	地域の歴史を知る貴重な歴史遺産である遺跡を守る。					
事業概要	埋蔵文化財の保護 16,207千円 ・埋蔵文化財保護のための遺跡情報周知と保護措置（発掘調査・工事立会等）の実施 ・埋蔵文化財の記録保存調査の実施、市内遺跡の分布状況調査 ・花巻城跡の遺跡内容確認調査の実施 ・公有化遺跡の環境整備 埋蔵文化財の活用 5,597千円 ・埋蔵文化財・史跡等を活用した各種講座及び講演会・セミナーの開催 ・埋蔵文化財を活かした地域事業への協力 ・遺跡標柱の設置 ・総合文化財センターにおける埋蔵文化財資料の収蔵・展示 ・利活用に向けた資料の再整理及び展示・体験学習等の実施					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	埋蔵文化財保護制度を周知した回数	回	計画	3.00	5.00	
			実績	4.00	5.00	
2	各種講座・展示会等の開催	回	計画	6.00	6.00	
			実績	6.00	7.00	
3	遺跡標柱設置数	本	計画	10.00	10.00	
			実績	10.00	4.00	
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	保護された遺跡の件数	件	目標	80.00	80.00	
			実績	89.00	115.00	
2	埋蔵文化財関係講座等受講者数	人	目標	1,000.00	1,500.00	
			実績	1,906.00	2,596.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
消費税増税に伴う駆け込み需要及び公共事業の増加で開発件数が増えたため、遺跡の保護件数が増加した。埋蔵文化財関係講座等受講者数は、県統計大会等の大規模な講演会への講師依頼があったため、受講者数が増加した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	埋蔵文化財は国や地域の文化の成り立ちを明らかにする上で欠くことのできない国民共有の財産であり、地域の資産でもある。その保護と活用に努めることは、地方公共団体の任務として文化財保護法に規定されており、市の主体的な実施が必要である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	岩手県教育委員会との連携による県内開発業者への周知徹底を図るほか、建設部等庁内関係部署とのさらなる情報共有により、保護活動を向上させる。また、埋蔵文化財資料等を活用した講座等を開催することにより市民意識を一層向上させることができる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	埋蔵文化財を正しく保護・活用するために、専門知識及び経験を有した職員の対応が必要であること、遺跡内での開発数は年度により増減することから、一定の事業費及び人件費の確保が必要である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	埋蔵文化財の保護による受益は、記録保存された遺跡の調査成果等公開し、広く周知することにより、地域を知る財産として市民はもとより国民に及んでいることから、公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	活動指標は、遺跡標柱設置数を除いて、概ね計画を上回った。指標のうち遺跡標柱設置は、耐久性の点から構造を見直したため、設置数が減ったものである。成果指標では、2つの指標とも目標を上回った。保護された遺跡の件数では、開発件数の増加に伴う対応のほか、公共工事において建設部等庁内関係部署との情報共有を行い、適切に対応した。講座等受講者数については、入館者が減少傾向にあるものの、大規模な講演会への講師依頼があったため、増加となった。
	次年度に向けて	埋蔵文化財が国民共有の財産であることを念頭に、引き続き関係各所と連携し、開発者への制度周知に努める。埋蔵文化財の適切な保護・保存に努め、その資料を有効に活用した展示会や講演会などの事業を継続して推進する。

平成31年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	10	05	09	104590	展示活動事業費
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興
	施策	03	文化財の保護と活用		
目的	市民が花巻の歴史や文化に対する関心を持ち知見を深めるため、展覧会を開催し貴重な歴史資料や美術作品等を紹介する。				
対象	市民				
意図	展覧会の開催により市民が普段目にする事がない歴史的資料や美術作品を紹介し、花巻の歴史や文化財への興味と関心を高める。				
事業概要	資料収集活動 652千円				
	展示活動	14,378千円			
	・特別展	発掘された日本列島	8/2～9/10		
	・テーマ展	多田等観	6/15～7/15		
		収蔵資料展	9/24～11/17		
		花巻人形	2/15～5/6		
	・共同企画展	松川滋安	12/7～1/26		
	調査研究活動 11,420千円				
市民参加の有無	対象外				
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成
活動指標		単位	区分	H30	H31
1	展覧会回数	回	計画	5.00	5.00
			実績	5.00	5.00
2			計画		
			実績		
3			計画		
			実績		
成果指標		単位	区分	H30	H31
1	博物館入館者数	人	目標	20,000.00	20,000.00
			実績	18,072.00	17,750.00
2			目標		
			実績		
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり	
				目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>学芸員が花巻の歴史や文化について、豊富な知見を蓄え、展示活動の基礎となる調査研究をするということに力点を置き事業を進めた。</p> <p>日本全国の発掘状況の速報展と、それに関連した地域展示を開催した。特に地域展示では、東北の近世幕開けの契機となった奥羽仕置に着目し、花巻やその周辺が中世から近世へと移り変わる様子をたどったことで、市民や来館者たちが興味を持ち、リピーターも増えた。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大の防止対応のため休館したが、花巻に関わる展示をしたこともあり、成果指標に掲げた来館者の目標数値に近づいた。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	花巻市の考古・歴史・美術工芸各分野の貴重な資料を収集及び保管すること、そして調査研究によって資料の歴史的な価値を明らかにし、公開等を行うことで、市民の教育、学術及び文化の振興に寄与することが博物館の役割である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	展覧会は、学芸員の調査研究活動が十分に反映されたものとし、来館者の知的好奇心に訴える資料の選定を行い、開催趣旨に沿った内容の充実に努めている。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	展覧会にかかる費用の積算にあたっては、展示資料の安全確保と資料の魅力を最大限に伝えるレイアウトを行うため、コストバランスを充分に考慮し、事業費、人件費とも精査して適切な経費の執行に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	来館者に対しては周辺他館との共通入館券や、団体料金他各種割引料金を設定するなど、来館者の観覧事情や目的に配慮した価格設定としている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	市民が花巻の歴史や文化財に親しみ理解を深めるため、展覧会や博物館講座、体験学習などを開催した。今年度は、開館15周年記念特別展「発掘された日本列島2019」において、日本全国の発掘状況の速報展と、それに関連し、花巻やその周辺が中世から近世へと移り変わる様相を城館遺跡の発掘調査成果を通して、市民の知的好奇心に応える魅力ある展覧会を開催した。さらに、市民からの要望もある展示をして、博物館へ来館することで、さらなる学習意欲の向上や興味関心の呼び起こしに努めた。市民の知的好奇心に応える魅力ある展覧会を開催するとともに、地域に根ざした博物館として、考古、歴史、美術工芸各分野の調査研究を進め、先人の英知や郷土の歴史と文化を学習する場としての充実を図った。
	次年度に向けて	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当初の展示内容や期間の変更等が予想されるが、市民が花巻の歴史や文化財に親しみ、知的好奇心に応える魅力ある展覧会を開催していく。また、さらなる学習意欲の向上や興味関心の呼び起こしに努め、理解を深める博物館講座等で、学習の場を提供していく。また、考古、歴史、美術工芸各分野の調査研究を進め、先人の英知や郷土の歴史と文化を学習する場として充実を図ることで、地域に根ざした博物館を目指す。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	09	104600	教育普及活動事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	03	文化財の保護と活用			
目的	市民が花巻の歴史や文化への関心を高め、ふるさとを愛する心を育むため、各種講座や体験学習を開催する。また市内の小中学校と連携した総合的な学習や博物館での学習活動を支援する。					
対象	市民、児童・生徒、教員					
意図	市民や市内小中学校の児童生徒に博物館での学習を通じて、ふるさとの歴史や文化への興味と関心を深め郷土を愛する心を養う。					
事業概要	教育普及活動事業 2,107千円					
	博物館と学校教育の連携による学習支援 体験学習・各種講座の開催					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	講座回数	回	計画	12.00	40.00	
			実績	57.00	70.00	
2	体験学習開催回数	回	計画	9.00	9.00	
			実績	19.00	16.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	講座受講者数	人	目標	240.00	2,000.00	
			実績	1,977.00	2,405.00	
2	体験学習受講者数	人	目標	180.00	450.00	
			実績	421.00	420.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
31年度成果指標の達成度 講座受講者数（既定20回及び出前授業等） （内訳）館長講座 2回 56人 博物館講座 7回 174人 古文書講座 11回 98人 出前授業等 2,770人 計2,405人 体験学習受講者数（16回 定員420人） （内訳）勾玉つくり5回 137人 こはく玉つくり2回 52人 縄文弓矢体験3回 166人 花巻人形絵付け1回 7人 陶芸体験（台焼）1回 8人 プラ板キーホルダー2回 18人 ミニチュア土器1回 15人 その他 17人 HPや広報物、学校への継続したPR等を実施してきたことが、興味や関心を抱いてもらうことに繋がり、それぞれの指標の目標値を上回ったものと考えられる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	博物館と小・中学校とが連携することで、郷土の歴史や文化に対する興味関心を高め、深い理解へと導くことで、地域を大切にすることを育む。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	博物館所蔵資料を念頭に、各種講座や体験学習において、受講者のニーズや時代に即応した内容を考えることで充実を図っている。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	講座・体験学習とも地域の文化に即した内容であり、専門的な知識や技術を有した人材が必要である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	講座・体験学習とも基本的に受講や参加に制限はなく、費用についても実費となる材料費のみの負担である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	講座や体験学習を通じて、花巻の歴史や文化の知識を深めるだけでなく、受講者自らが歴史の語り手となり文化の継承者として、積極的に活動できるよう支援した。博物館と小中学校との連携については、年を追うごとに事業の成果があらわれてきている。博物館でのワークシートを活用した見学や、実際に各校におもむき出前授業を行い、親しみのもてる歴史や文化の学習を提供した。学習メニューの作成は、各校の担当教諭と密に連携を図りながら、各校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性をもちこんだ内容とすることで興味や関心を高めるように工夫した。
	次年度に向けて	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4、5月は講座、体験学習を中止し、今後も見通しが立たない状況であるが、実施可能となった場合は、次のことに留意することとする。講座や体験学習、博物館と小中学校との連携事業の開催にあたっては、ワークシートを活用し、密にならない博物館見学の推奨と、各校の担当教諭と連携を図りながら、各校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性をもちこんだ内容とすることで、興味や関心を高めるようにしていく。